



令和4年12月14日

くらすべ山形

『くらすべ山形！移住・定住推進懇談会』を開催しました！！

12月2日（金）に、山形県自治会館（山形市内）において、『くらすべ山形！移住・定住推進懇談会』を開催しました。くらすべ山形では、地域活動を実践されている方やU・Iターンされて活躍されている方などを委員としてお招きし、ご自身の取組みの様子や「くらすべ山形」の取組みに対するご意見・アドバイスをいただいております、今年で2回目の開催となります。

今後、いただいたご意見・アドバイスを取り入れ、「くらすべ山形」の事業がより効果的なものとなるよう事業計画等に反映させていく予定です。

1 委員（11名） ※順不同

山形大学人文社会科学部 教授 山田 浩久 氏	【山形市】
石の浄朝有限会社 取締役 吉田 朝夫 氏	【山辺町】
ゲストハウスオーナー 志藤 一枝 氏	【朝日町】 ※欠席
株式会社A n d M E R C I 代表取締役 清水 憲子 氏	【大石田町】 ※欠席
一般社団法人最上のくらし舎 代表理事 吉野 優美	【新庄市】
ひじおりの灯実行委員会 委員長 早坂 隆一 氏	【大蔵村】
人材育成アカデミー ローズレーン 代表 黒田 三佳 氏	【米沢市】
おぐにマルチワーク事業協同組合 代表理事(兼)事務局長 吉田 悠斗 氏	【小国町】
合同会社とびしま 代表社員 本間 当 氏	【酒田市】 ※欠席
鶴岡ナリワイプロジェクト 代表 井東 敬子 氏	【鶴岡市】
羽黒・ovenKato 加藤 あさ野 氏	【鶴岡市】

2 委員からの主なご意見・アドバイスなど

(1) 主なご意見

- ・移住者と地域のコミュニケーションが重要である。移住者のためだけでなく、交流の中で、移住者からその地域の良さを聞くことにより、元々そこに住んでいる人が自信を取り戻すことも大切である。移住者との交流を進めやすくしていくことは、そこに住んでいる人の責務でもあると思っている。
- ・社会課題を解決するために山形県と関わりたいという方もいるので、そのような方々と戦略的に一緒にやっていくという考えも大切だと思う。
- ・県、市町村、民間が担うことは違うので、それぞれの役割をはっきり決めて10年間くらいの計画を立てると良いのではないかな。
- ・UターンとIターンの戦略は大きく違う。Uターンは高校生へのアプローチが大切だと思うので、現在行っている高校生へのアプローチを継続してほしい。

- ・自分はIターンで、地域交流も大切にしたいので、会合や地域の若妻会にも所属しているが、地元の方が会に所属したがるらないというのが現実。もともと住んでいる方々が地域活動に面倒くささを感じており、県外からお嫁に来た方が工夫を凝らして仲間を増やそうとしている。地元の方も新しく地域に入ってくる方も小さな心配事も相談できる、風通しのよいお付き合いができたらいと思う。 など

(2) 「くらすべ山形」の取組みに対する主なアドバイス

- ・「くらすべ山形」の活動は評価できる。現在、移住と定住のカテゴリを2つに分けてイベントを組んでいるが、移住しようという方のパターンもいくつかに分けられるし、定住している方のパターンも異なる。IターンとUターンとでは困っていることが元から異なっており、幸せの感じ方もそれぞれ異なるため、行政と民間が役割分担をするという意見もよく分かった。「くらすべ山形」では、常に精力的に、多様なイベントをかなりの本数をこなしているが、目的や対象を細分化し、カテゴリライズしても成り立っていくと感じた。
- ・（移住につなげるためには）仕事探し、再就職が重要になってくるが、「大人のためのインターンシップ」もよいのではないか。「お試し居住」はあるが、「お試し仕事」もよいと思う。
- ・Uターンは戻ってきた人を再教育するというよりも、迎え入れる人をどう育てるかが重要と言われている。移住者の増につなげていくためには、まずここにいる人たちが地域のことを見つめるような教育をし、スキルアップすることも大切ではないか。 など

【会場の様子】

